

令和 7 年度第 1 回小牧市交通安全・防犯対策協議会 議事録

日 時	令和 7 年 7 月 17 日（木） 午前 10 時 15 分～午前 11 時 35 分
場 所	小牧市役所 東庁舎 5 階 大会議室
出 席 者	【委員】 ◎中村 明 交通安全協会小牧支部 ○林 泰治 安全なまちづくり推進指導員 加藤 一樹 小牧安全運転管理協議会 永井 信保 小牧市交通委員連絡協議会 春井 ひとみ 小牧防犯協会連合会 長谷川 幸彦 小牧工場事業場防犯協会 加藤 隆明 小牧少年補導委員会 伊藤 守 小牧市保護区保護司会 田上 昭典 小牧市生徒指導連絡協議会 稲垣 貴宣 小牧市区長会連合会 落合 光江 小牧市更生保護女性会 澤木 厚司 小牧市社会福祉協議会 長谷川 宜史 小牧商工会議所 長橋 克将 小牧小中学校 P T A 連絡協議会 梅田 三枝子 公募委員 熊澤 正幸 公募委員 牧野 裕人 公募委員 ※ ◎会長、○副会長 【事務局】 落合 健一 市民生活部長 小川 真治 市民生活部次長 堀田 正二 市民安全課長 坂田 充 市民安全課主幹 五十君 有美子 市民安全課交通防犯係係長 安達 賢一 市民安全課交通防犯係主任 尾関 愛 市民安全課交通防犯係主任 【小牧警察署】 掛布 佳男 交通課長 大谷 修 生活安全課長
欠 席 者	辻 里美 子どもと高齢者を交通事故から守る会 梶田 久美子 小牧市女性の会 服部 勲 小牧市老人クラブ連合会
傍 聴 者	0 名
配布資料	・ 次第 ・ 資料：協議事項及び報告事項

主な内容

1 協議事項

(1) 会長及び副会長の選出について

立候補、推薦がなく、事務局の提案により会長に交通安全協会小牧支部 中村 明委員、副会長に安全なまちづくり推進指導員 林 泰治委員が選出された。

(2) 交通安全・防犯対策課題提案型実証事業について【事務局より説明】

①DX技術を用いた新たな防犯対策の推進

- ・小牧市内で発生する犯罪を減少させたいという思いで、協力企業を公募し、酔わないVR ゴーグルの技術を持つ株式会社スピードに決定した。
- ・小牧市内や愛知県下で多く発生している特殊詐欺対策、女性や子ども達が安心して暮らせる小牧を目指した映像をVR ゴーグルにて体験し、「ジブンゴト」としてとらえてもらうような取組を実施していきたい。
- ・特殊詐欺は、具体的にどういう電話がかかってくるか体験した人は少ない。また、不審者に声をかけられた時にどうしたらいいか具体的にイメージを持っている人も少ないということで、360度の映像を用いたVRによって実際に体験し、対応策を知って欲しい。
- ・完成した映像は、防犯講座、高齢者施設、こども未来館などで体験してもらう予定であり、実際に体験した方の声なども含めて可能であれば、テレビや新聞、色々な媒体で広報していきたいと考えている。

②テレマティクス技術を利用した「セーフタウン小牧」の実現に向けて

- ・テレマティクス技術とは、自動車に通信システムを搭載し、自動車の位置情報や走行状況を把握するシステム
- ・通信システムにより、自動車の交通量及び危険箇所を集約し、交通安全対策マップを作成する。
- ・令和6年度には企業との実証実験により、企業が保有する自動車の走行データと地域からの声を基に市内小学校のうち2校と交通安全マップを作成した。今年度は、さらに広い範囲で交通安全マップをつくるために、小牧市と連携協定を結んでいるあいおいニッセイ同和損保と共同して事業を行う。
- ・通信システムのデータの集約期間については8月1日から8月31日までを予定しており、専用アプリを取得し、スマートフォンで自分の運転を確認することができる。

(長谷川 幸彦委員)

見て感じられることは非常にいいと思うが、体験できるのは1人ずつであり、同じ映像を複数人で見られたとしても映像を見るだけになってしまう。どれぐらいの台数・費用・規模でやるのか。

(坂田主幹)

VR ゴーグルは、合計5台程度を考えている。規模としては、大体50名ずつを想定

している。やはりゴーグルを装着した方しか体験できないので、2分～3分程の体験時間をなるべく短くしたものとしたい。時間を短縮しながら、1人でも多くの方に体験していただけるようにと考えている。

子供たちの安全対策については、こども未来館だけでなく放課後の児童クラブなどでも実施を考えている。

(長谷川 幸彦委員)

・VRのゴーグルは5台で、1人当たりの時間を短くと言われたが、その5台でどれぐらいの人が、体験できるのかは疑問に感じる。集まった人だけが体験するのではなく多くの市民の方に伝わることが大事。

・車の走行状況を記録するチップの体験期間が8月1日から31日だが、8月は夏休みがあるなど特殊な月であるため、通常の走行状況のデータとは異なるのではないかと思う。単発な取り組みではなく、長期的にデータを取得すべきなのではないか。

(中村会長)

児童館での体験という話があったが、市内には多くの児童館があるので、利用者に広く体験してもらえればと思う。高齢者施設も含め多くの場所に、最終的には常時1台か2台置いておくなどして、多くの人がいつでも見られるように進めることがよいのではないか。

(澤木委員)

車に通信システムを搭載する件の募集は明日までとなっているが、もしこれ以降にやってみたいという場合は参加可能か。

(坂田主幹)

明日以降でも募集可能。窓口又は電話にて問い合わせいただくか、チラシに記載のあるQRコードから申し込みいただきたい。

(林副会長)

・今まではアナログな方法が多かったが、DXを使った方法で啓発ができるようになることはいいことだと思う。DXは費用が多くかかるが、地域の子供会、老人会、企業など様々な場所でVRゴーグルの体験ができるように、せっかく作ったものをどのように生かすかを私たちが提案することが大事である。

・各自治体等では、DX主体の事業が実施されている。

・高齢者向けのVRゴーグルの体験会を実施する際に、合わせて防犯の補助金について周知するなど、DXを起点とすることでコストパフォーマンスが高い事業を展開することができると思うので、皆さんに様々な提案をしていただきたい。

(堀田課長)

- ・今回、実証実験で行っているこの事業については、市民安全課独自でやっているものではなく、小牧市の行政改革課が中心になっている。民間企業の方々と協力して、各部署で実施している事業の課題解決を目指して取り組んでいる。市民安全課は、去年は交通安全対策、今年は防犯対策ということで進めている状況。
- ・一定効果があったものについては、次年度に予算計上して継続又は拡充して実施していく。VR ゴーグルについては、次の会議ぐらいで1度皆さんに体験していただき、効果的であるということであれば、先ほどお話のあったようにどこかの施設に常駐できるようにするなど検討していきたいと考えている。

(中村会長)

今回の会議において、実際体験することで前進する方法を考えていけたらと思う。

(堀田課長)

今回の会議開催までに VR で使用する映像が完成する予定である。ぜひ次の会議の際に皆さんに体験をいただいて、ご意見いただければと思う。

(五十君係長)

次回開催予定日の9月26日に、VR ゴーグルが借りられるか業者に確認する。借りることができればそこで、難しければ高齢者施設等で行う実証実験の場所をご案内することになるかと思う。

(梅田委員)

市などで行う企画について、中心部の人たちだけが知っているという状況が今までたくさんあったと思うが、そういう情報は、やっぱり各地域にも下ろしていかないと、中々皆さんに伝わらない。
私の住んでいる地域のサロンで、防犯に携わる者として私から皆さんに情報提供することがあるが、もっと詳しく振り込め詐欺等について知りたいという声がある。サロンは小牧市全体で多くあるので、そういった場に集まる高齢者に向けて積極的に情報を発信し、体験をしていただく機会を創ることが必要だと思う。

(坂田主幹)

日頃、様々な場所に講話に行くので、このVR ゴーグルの準備ができれば、1人でも多くの方に体験していただきたい。今、ご提案いただいた内容も踏まえて1人でも多くの方に広げていきたいと思う。

(中村会長)

- ・体験できる人を増やすために、例えば広報で周知したうえで地区別にある市民センターで講話や体験会を開催するなど、方法はたくさんあると思う。この会議の中で現

実的な方法を考えていって、体験できる人を増やしていくのがいいのではないかな。

- ・VR ゴーグルの台数を増やして、常備してあるような状態に進めていただければいいと思う。

(加藤委員)

- ・この会議は年2回位しかないので、ここのメンバーで運営委員会のような組織を作って、会で話し合ったことを市へ相談するような仕組みを作るといいのではないかなと思う。先ほど話が合ったように、実施期間が8月1日から8月末となっているが、確かに休みが多い期間であるので、そういう期間を除いてやったほうがいいのではないかなという意見も、運営委員会があればこの会議の前に集約できたのではないかな。

- ・今、各小学校区に地域協議会があり、年に1回は大きなフェスティバルみたいなものを行っているので、そういうものを利用して活動を広げるのも1つの方法ではないかなと思う。

(長谷川 宜史委員)

- ・先ほどご意見があったように、台数に限りがあるので、目的をどこに置くか、そして広く知らせるということに主眼を置く必要がある。

- ・数十人、数百人の方に体験してもらうことを並行して進めるのはいいが、おそらく多くの高齢者の方は新しい技術やDXという言葉自体に抵抗感があると思うので、新しい技術にアナログ的な考え方がプラスされてもいいのかなと。

- ・広く知らせるという観点においても、大人数の方の前で特殊詐欺の寸劇みたいなものを行うことで視覚的に訴えたりして、二つの方法でいかに広く対策や方法を知らせるかを考えていくといいかなと思う。これは子どもに対する啓発としても同じである。

(坂田主幹)

VR ゴーグルの体験会では、体験を待っている方には特殊詐欺の手口を口頭でお伝えしたいと考えている。

(長谷川 宜史委員)

待ち時間中に聞くのは、こういった内容か。

(坂田主幹)

具体的に詐欺の犯人がどういう会話をしてくるかなどを伝えたいと考えている。子どもに対しては、言葉で聞くだけだと伝わりにくいと思うので、目で見て分かる方法で伝えていきたい。

(長谷川 宜史委員)

言葉で聞いても中々、印象に残らないこともあるので、視覚的に鮮明に記憶・実感できるぐらいのものを準備する必要がある。

(五十君係長)

今年度は実証実験であり、今回の意見や今後の体験会での結果も踏まえて来年度実施するかを選択できる。いただいた意見を反映させていきたいと思うが、実証実験ということでご理解いただけたらと思う。

2 報告

(1) 小牧市における交通事故及び犯罪発生状況について

(掛布交通課長)

- ・愛知県内において昨日現在、交通事故で亡くなった方は 58 名であり、昨年と比べるとマイナス 12 人ということで減少傾向にある。一方、人身事故で怪我をされた件数としては約 1 万 3000 件発生しており、昨年比プラス 400 件。
 - ・小牧市内においては、今年に入って 1 名の方が交通事故で亡くなっている。事故の発生件数は昨年 1 年間で 600 件であったが、昨日現在の発生件数は 321 件であり、昨年比マイナス 1 件で、昨年と同じような数で推移している。死亡事故は 1 件であるが、これは事故から 24 時間以内に亡くなった場合のみ計上されるという統計上のルールに則った数である。事故当初意識があったものの、入院中に急変して亡くなった方が他に 3 名いるので、現在交通事故が原因で亡くなった方は市内で 4 名である。
 - ・市内の交通事故の特徴としては、まず自転車に乗っていて事故にあうことが非常に多い。愛知県内では、事故のうち 21% が自転車の事故であるが、小牧市では 28% ということでかなり割合が高くなっている。こういった交通事故が多いかということ、交差点はもちろん、お店や駐車場などからの出る際に事故を起こすというケースである。左側通行なので、外の施設から出る際に右からくる車を注意するあまり、左側の安全確認を怠って、左から来た自転車と衝突するという事故が多い。
 - ・自転車のヘルメットの着用率の調査を今年行ったところ、18% であった。昨年は 2 回調査を行っているが、1 回目が 14%、2 回目が 17% であったので、若干ではあるが今年の調査で増加している。愛知県内の平均は 17% 程なので、県内の平均よりは若干多いが、着用率の高いところでは 40% 近くとなっているので、着用率を上げなければと考えている。
 - ・市内の高校生向けに行った自転車に関する交通安全教室では、高校性はほぼ被っていないかった。小中高生で比べると、交通事故にあった人の中で小学生はほぼ 100% の子が被っているが、中学生になると 40% まで減少し、高校生になるとほぼ被っていないという状況である。
- 高校生になぜ被らなくなるかを聞いてみると、そもそもヘルメットを持っていないという回答が非常に多かった。そのため、まずヘルメットを買ってもらうことから始めようということで、小牧市で実施している補助金制度について広めたりして、着用率を上げていきたい。

(大谷生活安全課長)

- ・今年の 6 月末の統計では、刑法犯認知件数は 663 件で前年同期比プラス 172 件であ

り、約 35%の犯罪が増加している。このうち自転車の盗難については、全体の 27%で、179 件発生した。商業施設の店舗の駐輪場、アパートやマンション、駅の駐輪場で多く発生していて、このうち無施錠で盗まれているのが 75.4%である。

愛知県下の無施錠率は 65%なので、小牧市はそれよりも 10%以上高く無施錠で盗まれていると言える。

- ・主な犯罪件数の内訳は、侵入盗 38 件（前年度比プラス 12 件）、自動車盗については 11 件（前年度比プラス 6 件）で、ランクルが 11 台のうち 5 台盗まれている。

特殊詐欺は 17 件で（前年同期比プラス 9 件）、17 件のうち 11 件が警察官型のオレオレ詐欺となっている。最も小牧署管内で増加率が激しかったのは、自動販売機の盗難である。昨年は半年で 2 件だったのが今年は半年で 25 件発生しており、自動販売機の事業者にはこちらから働きかけをしている。被害にあっているのは、会社や工場の敷地内の自動販売機であり、壊されて中のお金が盗まれるという手口。

- ・6 月以降に多発しているのが、チェーン展開している飲食店への侵入盗であり、現在防止対策を強化しているところである。

- ・警察では、このような犯罪情報や不審者情報をパトネットあいち・アイチポリスというメール・アプリでタイムリーに情報発信しているので、ぜひ登録していただければと思う。

(2) 令和 6 年度の交通防犯の取組事項について【事務局より説明】

①交通安全対策…幼児から高齢者まで交通安全教室・街頭キャンペーン等を実施

②防犯対策…防犯教室・街頭キャンペーンを実施。民生委員の高齢者宅訪問時に特殊詐欺防止啓発資材の配布・注意呼びかけを依頼した。

③交通・防犯合同で実施した対策…高校において自転車盗防止のためのツーロック啓発と合わせて自転車用ヘルメットの着用に関する啓発を実施した。さらに、市内の駅駐輪場及び市役所駐輪場にて自転車の鍵かけを促す看板の掲示やヘルメット着用の呼びかけを実施した。

(3) 今年度の取組事項について【事務局より説明】

①交通安全マップの作成及び防犯対策課題提案型実証事業

②巡回バスへの交通・防犯対策ポスターのラッピング等について

- ・次回の協議会にて優秀作品の決定

③乗車用自転車ヘルメット補助金について

- ・従来の広報に加えて商業施設においてヘルメットの着用・補助金についての広報を行う

④地域防犯カメラ等設置補助金の拡充の周知について

- ・補助額の上限を 20 万円から 34 万円に拡充。より多くの区に設置してもらうよう積極的に周知する。

3 その他

報告、質疑、意見等は特になし

以上